MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

２０２３．１２．２　発行元
第 533 号　伊藤　剛
https://mystery-dokuan.com

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

アガサ・クリスティ「ベスト表」(再掲)

「ミステリの女王」とも言うべきアガサ・クリスティの『ベスト表』を再度取り上げることにする。『そして誰もいなくなった』を筆頭にして、「ミステリの古典」として知られている名作・傑作がずらりと並ぶ。

若い読者も是非読んでほしい

百年近く前の作品なのだが、「ミステリの古典を知る」という意味で若い読者にも是非読んでもらいたいと思う作品が並んでいる。各個人の好き嫌いもあるので無理には薦めないけれども、ミステリを語るには読む価値は大きいと思う。

前回の「代表作」の時には『そして誰もいなくなった』『オリエント急行の殺人』『ミス・マーブルと 13 の謎』の三冊を紹介した。今回は『アクロイド殺害事件』と『白昼の悪魔』にしてみた。もうひとつの名作『ナイルに死す』は『船のミステリ』の号で紹介している。次に「代表作」の号を書くとするなら『予告殺人』『三幕の悲劇』『クィン氏の事件簿』あたりになるのだろうか。

クリスティの本はハヤカワの『クリスティー文庫』としてどこの新刊書店にも何冊か並んでいるし、大きな図書館なら全巻揃えていることが多い。今でも一定の読者層がいることを示している。

『アクロイド殺害事件』　１９２６年の作。長編第六作。「ポワロもの」としては三作目に当たる。本作が有名なのは、最後に明らかになる結末がフェアであるかどうかが議論になるためである。クリスティ自身が「著者の言葉」の中でも書いているように、批判が出ることを承知の上で、それでも「綿密な注意をはらって試みた」作品ということ。今時の読者から見れば「何でもあり」のミステリ世界なので、大して驚くほどの仕掛けではないのだが、当時としては「大問題」となり、賛成・反対が渦巻く原因となった作品と言える。

ポワロはイギリスの田舎・キングズ・アボット村にある「からまつ荘」に引っ越してきていた。そこではファラーズ夫人が睡眠薬の飲み過ぎで亡くなる出来事が起きたばかりで、自殺か事故かと噂話が広がっていた。続いて村一番の屋敷に住むロジャー・アクロイド氏が刺殺される事件が持ち上がり、ポワロは否が応でも事件に巻き込まれていく。

『白昼の悪魔』　１９４１年の作。『そして誰もいなくなった』が１９３９年なので、ちょうど脂が乗り切った時期の作品。「アリバイ崩し」であり、「本格ミステリ」らしさが現れた作品。

イングランド南西部のデボン州の海岸にくっ付くような場所に位置するスマグラーズ島。そこにあるジョーリー・ロジャー・ホテルが舞台。多くの避暑客の中にポワロがいる。いろんな会話、噂話…。前半のかなりの部分を使って集まってきた人達の人間関係を描き出す。それがクリスティの得意技。そんな中で美貌の元女優のアリーナ・マーシャルが絞殺死体で発見される。島の崖の下にある浜辺で。出掛けていく最後の姿を見送ったのはポワロなのか。アリーナを巡っては、男たち女たちの葛藤が続いていたので、誰にでも動機が存在するように思えてくる。警察は関係者のアリバイ調べに着手するのだったが…。難問が…。

《アガサ・クリスティのベスト表》

１．そして誰もいなくなった
２．アクロイド殺害事件
３．オリエント急行の殺人
４．ナイルに死す
５．ゴルフ場の殺人
６．予告殺人
７．白昼の悪魔
８．三幕の悲劇
９．シタフォードの謎
１０．クィン氏の事件簿（短）
１１．書斎の死体
１２．ミス･マーブル最初の事件
１３．チムニーズ荘の秘密
１４．クリスティ短編全集２（短）
１５．スタイルズ荘の怪事件
１６．ポワロの事件簿１（短）
１７．謎のエヴァンス
１８．ミス･マーブルと１３の謎（短）
…別題『火曜クラブ』
１９．青列車の謎
２０．ゼロ時間へ
２１．晩餐会の１３人
２２．パーカー･パインの事件簿（短）
２３．エンドハウスの怪事件
２４．クリスティ短編全集３（短）
２５．死が最後にやってくる
２６．ヘラクレスの冒険（短）
２７．ポケットにライ麦を
２８．クリスティ短編全集１（短）
２９．大空の死
３０．クリスティ短編全集５（短）
３１．ホロー荘の殺人
３２．クリスティ短編全集４（短）
３３．カーテン
３４．二人で探偵を（短）
３５．愛国殺人
３６．ポワロの事件簿２（短）
３７．ＡＢＣ殺人事件
３８．マン島の黄金
３９．忘れられぬ殺人
４０．ひらいたトランプ
４１．五匹の子豚
４２．鏡は横にひびわれて
４３．死との約束
４４．杉の棺
４５．動く指